

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年2月1日				
ハッピーテラス俊徳道教室						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		・安全に注意をして児童がのびのびと過ごせる空間が作れている。	・ボールを使う際に電気に当たってしまいそうな時がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		・全スタッフが教室全体を見渡せる位置に配置できている	・利用人数が多い際にスタッフが一人一人に関われる頻度が減ってしまう
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		・安全を一番に考え児童がわかりやすいように物などに表示をされている ・安全に配慮する為定期的に安全確認を行っている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		・工夫しているところは心地よく過ごすために安全に配慮が出来ているところ	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		・工夫していると思う点は学習や相談したい時に使える相談室がある	・大人数で入れる個室がないが、今の現状で必要ではない
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		・毎日前日の児童の振り返りの時間が業務の中に組み込まれている。 また週に1回のスタッフミーティングにて全体の共有がされている。	・スタッフミーティング等に出席が出来なかった際に情報の確認を行っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・保護者向けアンケートを配布し実際に保護者からの意見を取り入れている。 また普段から保護者との会話や関りを意識して取り組むようにしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・困りごとやよりよくしていくためにスタッフ同士での会話を増やしつつ、業務改善をする際には時間を作ってミーティングをお行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		・凸凹の巡回などで来られる方からの意見や改善点・工夫点等を含めて業務改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		・児発や保育園の研修にいき、今の現場だけでなく色々な環境や場所での研修を行っている。 他で行われていることや自分たちが行っていることの違いを見つけながら研修に挑んでいる。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		・支援プログラムは教室のホームページに記載されており、テーマに沿ったトレーニングに取り組むことが出来ている。 テーマにそってできるトレーニングの幅を広げていき子供たちの経験が増えていくよう工夫していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		・個々の子供に対して保護者のニーズや課題を客観視するためにも感じたことや気になったことをスタッフと共有しながらその子供に必要な課題への支援を計画することが出来ている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		・一人のスタッフでは見切れないことも他のスタッフと協力することで子供たちの変化や成長等に気づくことが出来るため、気づいたことや感じたこと等を共有する事を意識して取り組むことで子供の最善の利益を考慮した見当が出来ている。 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		・子どもたちの必要な支援をスタッフ間で共有・確認を細かく行っている、計画に沿った支援を行うことが出来ている。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		・子どもたちの必要な支援をスタッフ間で共有・確認を細かく行っていき、計画に沿った支援を行うことが出来ている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		・標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントを参考にしながら日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを重視して確認を行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		・本人支援だけでなく家族支援等も必要な項目に適切に設定されており普段から関わる中ででの児童の課題を適切に具体的な支援内容が設定できている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		・テーマに合わせた活動プログラムはもちろんその季節に沿ったイベントやそのテーマにそってできることを組み入れて考えることが出来ている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		・インターネットやAIを使って色々な活動の工夫を行っている。 パターン化しないように少しづつルールを変えたりやり方を変える工夫を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		・個別で頑張ることや集団での動きで身に着けていくために必要なことを組み合わせてサービス計画の作成が出来ている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		・前日の終礼の際に翌日のスタッフの行動確認と振り返り時間の際に当日のトレーニング内容を確認し、配置や役割を確認することが出来ている。またその日にsstなどが入っている場合には共有をしスタッフの動きなどの確認も行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		・その日のうちに支援記録を作成し保管を行っている。またその日に気になった児童の件についての日報を提出している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		・モニタリング月の対象者には漏れないよう連絡を取り、モニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		・トレーニングの中に相談の機会も取り入れていることで、自主性を育てている	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		・全員ではないが、担当者会議や事業所に参加をしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		・連携をとって形にして残している。	・普段からの交流は減ってしまっているため、連絡を取り合う必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		・保護者様に協力をいただき、行事予定に関しては連絡をいただいている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		・直接会って話をすることでズレをなくした支援が出来るようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		・必要があれば情報の提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	2	・デイ同士でスタッフ間の交流は少しあるが、子供たちも交えての交流は少ない	

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	4			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4			・年に2回、保護者会の開催をしている。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			・契約時に話をさせていただくとともに、変更などあれば全体発信をしている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			・モニタリングを通して保護者様の希望を聞き、利用者の方への支援をしている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			・どのような支援をさせていただくのか直接話をして聞いていただき、疑問があればその時に解決している。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			・必要があれば時間を作り相談が出来る環境を整えて話をしている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	1		・保護者会を開催している。 ・回数が少ないため、内容含め増やせるようにする。 ・的を絞った開催をすることで参加人数を増やせるようにする。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			・苦情のマニュアルに沿って動いている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4			・SNSを通して公開している。 ・今年度に関しては公開することが少なかったため、最低でも月に1度は公開できるようにする。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			・鍵付きの書庫に保管をしている。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			・個別支援計画の説明だけではなくモニタリングとして話をする機会を設けてズレを減らしている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2		・地域の方々に向けた発信は行っていないため、今後の課題として地域の催しに参加する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			・マニュアルの作成をしてから事業所内での研修を行っている。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			・利用者向けに関しては基本毎月の実施をしている。 スタッフについても緊急時の対応として研修を実施している。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4			・健康管理アンケートを書いていた。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			・健康管理アンケートを記入いただき、必要に応じて緊急時の対応方法を聞いている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			・安全計画の作成をし、スタッフ間でも研修を行っている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4			・作成後に保護者様への発信をしている。
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			・記録としてスタッフ全員が見れるデータに入力、保存している。	

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		・研修の実施をしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		・契約時に説明をさせていたっている。	